

山口市・済南市友好交流訪問団

訪問記

2010年7月12日(月)～7月16日(金)



「山口市・済南市友好交流訪問団」実行委員会

始めに



この度は、総勢42人の山口市・済南市友好交流訪問団の皆様と一緒に、友好都市である済南市を訪問することができました。済南市との友好を深めるにふさわしい訪問ができましたことに、心よりお礼を申し上げます。

済南市では、中国で最大規模の国際園林花卉博覧会に出展した山口園における記念植樹、銘飯の除幕や文化披露などの記念事業に参加し、一緒に博覧会記念公園の視察をさせていただきました。また、泉の都として有名な済南市の名所旧跡を御訪問いただきました市内観光を通じ、歴史を大切にしつつ環境への配慮を重視し、潤いのある生活の構築に必要な、持続ある発展を目指す済南市の姿を御堪能していただいたものと思います。

また、張建国済南市長主宰による歓迎レセプションに、市民訪問団の皆様と一緒に出席いたし、皆様の楽しそうな様子を拝見し、こうした緊密な交流の積み重ねが今後の国際交流の推進に繋がるものと確信したところです。

訪問団の皆様は大連・旅順を訪問され、済南市で見聞きしたこととはまた違った多くの体験をされたと思います。テレビや書物で接しておられる史実の現場を目の当たりにされ、中国と我が国の歴史のつながりを再度確認されたことと思います。

私ども公式訪問団は、済南市に続きもう一つの友好都市であります鄒平県を訪問し、伸び行く鄒平県の姿を拝見するとともに、済南市でも行いましたが、本市を紹介する観光のトップセールスを行わせていただき、観光交流の充実を図ったところでございます。

本市では市民の皆様の国際交流を中心に、地域の国際化や観光交流の推進に努めて参る所存でございます。今回の皆様の訪問が国際交流のきっかけになることを期待し、今後の皆様の御支援御協力をお願い申し上げます。

文末になりましたが、この度の訪問に御尽力賜りました実行委員会の皆様を始めとする関係各位の皆様へ、心より感謝を申し上げ、訪問をつつがなく行なうことができましたことのお礼とさせていただきます。

平成22年12月吉日

山口市長 渡 辺 純 忠

「山口市・済南市友好交流訪問団」

出発式市長挨拶

皆様、こんばんは。山口市長の渡辺でございます。

この度は、山口市と済南市の友好交流25周年を記念する、山口市・済南市友好交流訪問団に御参加いただき、誠にありがとうございます。

また、この様な訪問を企画していただきました実行委員会の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

済南市とはこれまで、青少年の派遣事業を中心に様々な交流事業を行い、友好を深めて参りました。この度は、このように多くの皆様とともに済南市を訪問し、四半世紀に及ぶ両市の友好を祝うと共に、新しい交流がますます広がることを皆様と御一緒に願うものでございます。

今回の訪問では、済南市に新しく建設されました「山口園」訪問記念事業や済南市政府主催の歓迎レセプションに皆様とともに参加いたします。特に歓迎レセプションの中では、市民の皆様による民謡の披露があると伺っております。民謡は、歌や踊り、そして衣装など、日本の伝統的な日常生活が垣間見える文化の一つでございます。済南市の皆様は大いにお喜びいただき、心の通い合う友好の絆が深まるひとときとなることを、大変楽しみにしております。

最後になりましたが、出発まで十分に体調を整えられ、楽しい御訪問となりますことを祈念いたしまして、出発式の挨拶とさせていただきます。

平成22年6月17日

山口市長 渡辺 純忠

「山口市・済南市友好交流訪問団」

出発式実行委員長挨拶

皆様、今晚は。お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。実行委員長を務めております大隅博志でございます。

4年前に合併後初の海外への市民訪問団の派遣として済南市への訪問団派遣事業を実施して以来、再び多くの方とともに済南市を訪問することができ、大変うれしく思っております。

私たち実行委員会のメンバーは、昨年11月から7回にわたり協議を進めて参りました。御協力いただきました実行委員の皆様には厚くお礼を申し上げます。

さて今回の行程では、最近対外開放され、また「坂の上の雲」の舞台として有名な旅順・大連と、万博で大いに賑わう上海観光を組み込みました。しかしながら、本事業の一番の目的は、友好都市済南市を訪問し、両国・両市民の親善を深めることでございます。他では体験できない両国の文化披露や記念式典など、25周年の記念事業を楽しみにお待ちしております。そして必ずや両市の友好交流の絆を深める素晴らしい派遣事業となるものと考えております。

最後になりましたが、山口市長様、議長様を始めとする山口市関係者の皆様、この度はこの様な機会を設けていただき、誠にありがとうございました。実行委員会一同、目的を達成できるよう努力して参りますので、引き続き御支援賜りますようお願い申し上げます。

簡単ですが、以上で私の挨拶といたします。

平成22年6月17日

山口市・済南市友好交流訪問団

実行委員会 委員長 大隅博志

日 程 表

7月12日（月）

山口市→福岡空港→青島空港→青島駅→済南駅

宿泊 済南市 山東大廈

7月13日（火）

済南市内視察 夕食は済南市主催レセプション

宿泊 済南市 山東大廈

7月14日（水）

市民訪問団

済南市→大連

宿泊 大連市 大連日航飯店

公式訪問団

済南市→鄒平県

宿泊 鄒平県 雪花山庄

7月15日（木）

市民訪問団

大連→旅順→上海

宿泊 上海市 サルボホテル

公式訪問団

鄒平県→上海

宿泊 上海市 サルボホテル

7月16日（金）

上海浦東空港→福岡空港→山口市

研 修 日 程

平成22年6月17日（木） 出発式・旅行説明・中国語講座

未来へ！ 日中歴史文化の交流を盛んに

荒 卷 大 拙

山口市済南市友好都市締結25周年の歓迎会の席上、筆者は済南市長はじめ中国側要人十名に（１）「日中对訳 山口十境詩—中世・日中の架け橋—」（２）「明使趙秩とその山口十境詩」＜山口大学アジア歴史・文化研究会＞（３）「大内弘世公山口開府六五〇年記念絵はがき山口十境詩」を贈呈した。日中が中世（南北朝・室町期）ゆるぎない文化交流のきづなで結ばれていた歴史的事実を再確認するためである。済南市要人の大きな反響を呼んだ。

明国洪武帝の使節、趙秩（ちょうちつ）は1372年、大内氏二四世弘世公に招かれ、山口古熊にあった臨濟宗大雄山永興寺（だいおうざんようこうじ。大内守護所）日新軒に十か月たらず逗留、山口十境詩（七言絶句十首）を詠じた。

十境詩の題目は次の通り

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ①水上に暑を滌く（大内水上 興隆寺） | ②南明の秋興（大内御堀 乗福寺） |
| ③象峰の積雪（宮島町、鰐石対岸） | ④鰐石に雲を生ず（鰐石町） |
| ⑤猿林の暁月（古熊 永興廃寺） | ⑥清水の晩鐘（宮野下恋路 清水寺） |
| ⑦泊瀬の晴嵐（宮野江良 泊瀬廃寺） | ⑧虹橋、水に跨がる（天花） |
| ⑨梅峰の飛瀑（滝町 法泉廃寺） | ⑩温泉の春色（湯田温泉） |

猿林（えんりん）の暁月（ぎょうげつ）

（山口市古熊猿林）

＜書きくだし文＞

曙色（しよしよく）、初めて分（あきら）かなり、天の霜をして雨（ふ）らしむる、と凄々（せいせい）たる残月、琳琅（りんろう）を伴なふ 山人一たび去って、消息（しょうそく）なし

驚起すれば、哀猿空しく腸（はらわた）を断（た）つ

＜詩趣＞

あけぼのの薄明かりによって、ようやく晴れた、寒さの厳しい霜の朝であることが分かる。寒さむとして寂しげな残月は、あたかも玉が触れ合って美しい音色をひびかせているかのように、西の空に浮かんでいる。山家（やまが）住まいの隠者（弘幸公—弘世公の父）がひとたびこの世から跡をくらませてより、たよりひとつ来ない。夜明け、急に跳び起きて寝床の上に座っていると、折から猿が哀しげに鳴き、隠者がしのばれて腸がちぎれるほどつらい。（趙秩が弘世公の心情を詠じた）

＜注解＞

○ 猿林 もと山口市古熊にあった大雄山永興寺、（開基大内弘幸。開山仏国国師＜

高峰顕日>)大内氏守護所西庁日新軒の旧境内地に弘幸(戒名、永興寺殿寒巖妙巖大禪定門)の塔所がある。弘幸公は1309(延慶2)年に創建、嗣子弘世公が1367(正平2)年境内を拡張し、仏殿・法堂を新築して、かねて帰依(きえ)していた普明国師(春屋妙葩)を九世住持として招請、隆昌した。慶長年間(1596-1615)毛利輝元が永興寺を破却、寺址に1618年北野小路にあった北野天神を遷座して古熊(今)天神とする。弘世公が1360年頃開設した「山口開府」はここ山口古熊の大雄山永興寺。

<補注>(1)(2)は山口大学 田梅教授(中国済南市出身)との共著。(3)は山口市中野寿子氏画

一番偉くなった日の写真

内 田 輝 幸
陸 子

前回に続き2回目の訪問。

写真は“熱烈歓迎”をバックに済南市市長、山口市渡辺市長さんを両サイドに、何とも場違いのオジサンがポーズを決めかねており、その前のテーブルには豪勢な料理や飲み物が所狭しと並んでおり、カメラマンは我が郷選出の山口市市会議員議長さん、その周囲を取り巻くテーブルでは、それぞれ大声でおしゃべりをしているものの、話は全く聞き取れないが時々いずれかのテーブルからカンペイ、カンペイと大声が立ち上がり、これに共鳴するかの如く、あちこちからカンペイが響き渡る。これらテーブルの一つの片隅では、何故か一点を見つめている、それなりのモナリザ(愛妻)の姿が写されているものである。

上記の写真は現在の技術では、残念ながらプリントアウトは出来ないものの、部分写真を手に3Dならぬ、それなりのモザリナとの4眼で楽しく再現しています。

終わりに、ドシャ降りの上海万博では、予約外の一般同行者の入場を頑なに拒む係員を前に、渡辺市長さんからの便乗者への心使いの一言が、結果的には主催者トップをも動かした思いやりの温かい一言、忘れることのない思い出です。お世話頂いた関係者皆様方有難うございました。

私と済南市とのかかわり



大隅 博志
美登里

私は山口市日中友好協会の副会長を務めている関係で、このたびの訪問団の実行委員となり委員長（市民訪問団長）をおおせつかりました。

市民の皆様が多数ご参加下さり、また、旅行中に多まづもって厚く御礼申し上げます。

大のご協力を頂き、無事に友好交流の旅を終えました。まづもって厚く御礼申し上げます。

さて皆様にとってこのたびの訪中はいかがでしたか。楽しい思い出がたくさんあれば幸いです。

私は4年前、平成18年（2006）の友好都市締結21周年の訪問団にも実行委員長として参加しましたが、このときは活発な文化交流が心に残っています。

では今回は、と申しますと、私としましては「山口園」が印象的でした。すでに終わっている園林博覧会に山口市が出展した石庭ですが、今回の訪問団に合わせて「友好締結25周年記念植樹並びに市民訪問団訪問記念銘板除幕式」が行われました。入り口での植樹につづいて、山口文化協会の山口市民踊友の会による民謡の披露がありました。私は一瞬「あ、これは山口園に山口市民の魂をいれる入魂の舞だ」と脳裏をかすめました。そのような意味を含めて民踊の会の皆様、ほんとうにご苦勞様でした。

私はこの山口園は山口市と済南市の友好の絆であり、いつまでも存続してほしいと思います。

ところで今回の訪問記から少し外れるかも知れませんが、済南市は私ども夫婦にとって深いご縁があります。

私が初めて済南市を訪れたのは29年の昔、昭和57年（1982年）です。目的は山口市と済南市の友好締結に先立つ予備交渉で、当時、山口市長の堀泰夫さん、当時、山口市日中友好協会会長の私の父・健一ら一行のお伴としての訪問でした。当時の中国は改革開放政策の端緒の時代。済南市の市街も今日の近代都市と異なり、古い町の姿を色濃く残していました。

その後、昭和60年（1985）に山口市に於いて両市の友好協定締結式が行われ、その翌年 昭和61年（1986）に初めての山口市日中友好協会の訪問団に妻と参加し、以来済南市へは、もう二十数回になるでしょうか。

その後、堀泰夫さんと父・健一は済南市名誉市民（中国語で榮譽市民）に選ばれ、済南市泉城広場にある「済南市榮譽市民記念壁」にその名が刻まれました。

父・健一は3年前亡くなりましたが、済南市から丁重な弔意が寄せられました。

今回の訪問の際も私と家内は名誉市民記念壁を訪れ、父の名の前で合掌しました。もちろん墓ではありませんが、中国を愛し、済南を愛した父の心がここにあると思ったからです。

私が元気なうちは、年に一度くらい、この記念壁を訪れたいと思います。私事を述べたご無礼をご容赦ください。

渡辺市長様を始め公式訪問団の皆様、ご参加の市民の皆様、誠にありがとうございました。

日・露の戦跡を訪ねて《山口市・済南市友好交流訪問記》



岡 秀 夫
イツ子

明治38年1月5日、彼方第3シベリア軍団長ステッセル將軍と、此方第三軍司令長官乃木將軍の歴史に残る『水師營の会見』が、今私が立っているこの地で、この廢屋のこのテーブルで行われたのである。

両軍の將兵が対峙したテーブルは、陸軍病院の診察台であったとか・・・

使用された椅子は、勝者の物が一段と大きかったのは単に勝者の優越を象徴するものではなく、両者の体格の違いを参酌された物だとか・・・

又、敗軍の出席者4名のうち1名がだらしなく姿勢を崩しているのは、前夜終戦の知らせに小躍りして飲み明かし二日酔いの所為であるとか・・・

時代の違いとは言え、何かホットするような説明に、心和む物を感じた。

100有余年の時は流れ、小学校の唱歌にも歌われたナツメの木も既に四代目の幼木が柵の中に大切に保護されていた。

標高203m、激戦の象徴203高地の台上に供養塔を訊ねた。僅か5日間の激戦で実に15,000人の將兵と二人のわが子を失った乃木將軍がその語呂から「爾靈山」と命名した供養塔に参じた。

多くの観光客の手前、力一杯吟ずることは憚ったが、一段低い踊り場で旅順港に向かって黙吟し、暫し感慨に耽ることが出来た。

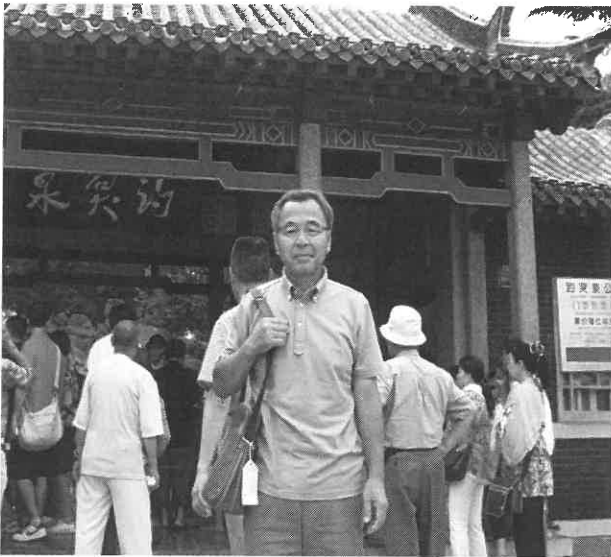
平成22年7月13日 山口市・済南市友好交流訪問団の一行は、団長渡辺市長以下総勢55名済南市長招聘の歓迎レセプションに出席し、文字通りの熱烈歓迎を受けた。

会場の舜耕山荘は5年前友好締結20周年記念訪問団として、又締結間もない頃農業視察団として訪れたときにもお世話になったところである。

このレセプション会場で文化交流の一環として、仁保地域交流センターを本拠として活躍している山口民踊友の会の踊りを披露する手はずになっていたが、急遽園林博山口園のプレート除幕式で披露することになり、ステージから外庭に変更少々戸惑いもあったが、流石経験豊かな皆さん、難なく成し遂げ万雷の拍手を受けることが出来た。

4泊5日のかなりハードなスケジュールであったが、早くから企画準備に腐心された国際交流室の皆さん、添乗員、ガイドのお心遣いと参加者全員のご協力で全員無事に楽しくお役目を果たすことが出来たことを、心から御礼申し上げ報告に返させていただきます。

「山口市・済南市友好交流訪問団」に参加して



栗 林 俊 一

市内の旅行会社のパンフレットを見ていると、「山口市・済南市友好交流訪問団」の参加募集が目にとまった。

平成10年から平成19年までの10年間、中国山東省において緑化活動を通じた国際交流と地球環境保全への取り組みとして、県民ボランティアによる植樹活動が実施され、私は、これまでに済南市と泰安市で実施された植樹活動に参加したことがある。

加したことがある。

このたびの友好訪問先は済南市を訪れ市民との交流や中国各地の名所旧跡が観光できるなど盛りだくさんの計画となっていたことと、私にとっては3年ぶりの中国訪問となり、懐かしく又、済南市内の発展ぶりもこの目で確かめてみたい思いもあり、真っ先に妻に了解を取り付け、一人で参加することとした。

訪問第1日目、福岡空港を離陸した機体は一路、青島空港をめざし約2時間あまりの空の旅であったが、私にとっては久しぶりの国外旅行で嬉しさと不安の旅でもあった。宿泊先は過去、何度も利用した馴染み深いホテル「山東大厦」である。

訪問第2日は、朝から「園林博記念公園」を訪れ山口園等を見学し、市内の名所旧跡で記念撮影を行った。久しぶりに見る済南市内は、猛烈な発展速度でインフラ整備等ができており非常に驚かされた。夜は18時から済南市の主催による歓迎レセプションに参加させていただき、双方市長等の挨拶にはじまり、各テーブルにおい

て日中相互の交流が行われ盛大に歓迎を受けた。

訪問第3日、4日は、小説でも知られている「坂の上の雲」の舞台である旅順市並びに大連市を初めて訪れ、私にとって見るもの全てが新鮮に感じられた。

訪問最終日は、上海万博の観光で世界各国、各地域、企業が最先端のエコロジーや省エネルギー技術を展示してある「テーマ館」を見学する予定であったが、朝から、あいにくの大雨により見学が思うようにできなかつたのが残念である。しかし、山口市のご厚意により特別に「日本館」が見学でき、過去、大阪万国博を見学した経験のある私にとって、とても有意義な上海見学であった。18時発の上海浦東空港を飛行機は離陸し、約2時間で福岡空港に無事着陸した。ほっとした思いと、これで訪問の旅も終わったと思うと少し寂しさも感じられた。

最後に、この訪問で私は一人旅でしたが、車中や各観光地等で親しく声をかけていただき楽しい旅となりました。ご一緒させていただきました皆様に感謝を申し上げます。次回、このような計画があれば是非、参加したいと考えています。この5日間、大変お世話になり、本当にありがとうございました。

【大家 祝您身体健康 再见!】

済南市友好交流訪問団に参加して



桑原敏子
水津眞理子

済南市?友好?交流?聞きなれないままに、お天気を祈りながら旅立ちました。

日本の過保護の生活では考えられない、道路交通事情。なんとって、人が優先ではなく、車が優先でもなく、勇気が優先とのこと。

自分で自分を「守る」、なかなか難しいです。

レセプションでは、素敵の中に、なごやかに、楽しく過ごせました。

済南市での民踊は、素晴らしい踊りでした。目から鱗でした。

203高地は、素晴らしい眺めでした。

しかし、苦しくて、辛い、悲しい、戦争のある歴史を思い出しました。そして、改めて平和と幸せを感じました。

日露監獄跡、檻の中の人間……

足裏マッサージの体験、上海万博の大雨。

異国の、時間に動かされ、お金の換算に慣れ、食事に慣れた頃は帰る日でした。楽しかったバスの中、たくさんの思い出もできました。

日本人以上にことばやお話の上手な添乗員さんを、尊敬しました。日本語以外を、しゃべりたい気持ちに又なりました。

市長さん教育長さん達とツアーで一緒でき、楽しむことができました。大変感動しました。

交流訪問に携わられた多くの方々のご心配に見守られて、無事終了できましたことを、とても感謝しています。お世話をおかけいたしました。

ありがとうございました。

山口園 庭園建設に携わって

竹下 隆司



今回の済南市訪問は、昨年に続いての再訪問となります。

去年は、山口市造園協会会員2名と共に山口園の庭園建設の技術指導に当たるために訪れました。

それは、7月の暑い時期ではありましたが、限られ

た期間で、また外国という土地でどれだけ成果があげられるか不安でしたが、現地の技術者、作業員の方とのコミュニケーションもとれ、作業もどうにか順調に進めることが出来ました。

作業員の増員に伴い広い庭園内に大量の樹木（松、サルスベリ、ネズミモチ等）が運び込まれ植栽が始まり、これからの見通しがたったところで、私達の工程は9月完成を祈り、終わりました。

今回、期待していた山口園視察で、青々と繁った樹木や緑鮮やかな芝生を眼にし、庭園の完成度を実感し、その後の現地関係者の取組みに頭が下がる思いがしました。

その庭園内で、踊りを披露して下さった日本舞踊会の方々、姿が園の中に溶け込み感激しました。

このような貴重な経験をさせて下さった、山口市長、関係方々に御礼申し上げます。

又、今回の訪問でお世話になりました、済南市の皆様、同行の皆様方有難うございました。

山口市・済南市友好訪問団に参加して



竹田 武己
月子

大隈会長からお誘いをうけ初めて参加しました。前日まで大雨警報が続き天候が気になりましたが出発当日は天候も回復に向かい中国での旅に期待が膨らみました。

ほぼ予定通り青海空港に到着、空港の規模に圧倒、さすが広大な中国だなと感じました。

夕食をとり中国の新幹線に乗り込み青島駅から済南駅へ、時刻はすでに夜の10:30であったにも

かかわらず済南市職員による熱烈な歓迎を受けホテルへと向かった。

今回の主目的である園林博跡地にて25周年記念の友好式典に参加しあらためて日中友好の絆を強く築き理解を求めることが出来ました。

・・・今回の観光大連・・・

私の姉夫婦（他界）は当時満鉄に勤務し終戦を迎え日本に引揚げてきた経緯もあり特別な想いで旧満鉄本社を訪ねました。又、旅順は日露戦争の激戦地（東鶏冠山）の要塞跡はただただ戦争の惨たらしさを禁じ得ませんでした。203高地に於いては「坂の上の雲」での放映を思い浮かばせる光景でした。

この度の4泊5日の中国の旅が関係者及びご一緒した皆様のお陰で本当に思い出に残るものとなりました。 謝辞

山口市・済南市友好交流訪問団に参加して



武永 清實
喜代栄

前回2006年7月の訪問団参加から早4年経ちました。前回は済南市との交流のあと九賽溝を旅するルートでした。経済発展を続ける中国を目の当たりにするとともに、スケールの大きい風景を堪能した旅でした。

今回は、発展を続ける中国経済の現状と済

南市との交流、さらに万国博を開催中の上海も楽しめるのではないかとの思いで、妻とともに参加を申し込みました。

12日は福岡空港から空路、青島へそして中国の新幹線で済南市へ約3時間で到着しました。日本の新幹線と同様、ゆれが少なく高速で快適な旅のはずでしたが（全席指定と聞きました）、中国の指定席券をもたない乗客が、室内に居座り大声で話すなどマナーが悪く、また車掌も注意しないなど快適さにはもうすこしかなと思いました。在来線と同じホームを走ることからかもしれないと思いました。

しかし、前回の訪問時になかった新幹線、上海での実用化されたりニモーターカーなど、中国の社会インフラの整備が急速に整ってきていることが実感させられました。

13日は園林博跡地の山口市が贈呈した山口園の記念植樹、名盤授与の記念式典、広大な土地に世界各都市からの庭園の提供を受けた庭園は、一日ではとても訪れきれない規模と大きさでした。駆け足での見学でしたが、今度は一日ゆっくりかけてみてみたいものだと思います。

午後からは、市内（といっても山口県くらいの広さがあるようですが）の千仏山、大明湖、趵突泉を観光しました。

夜は、済南市の歓迎レセプションで心温まる歓迎を受けました。同じテーブルの済南市外事弁公室の孫龍副処長は流暢な英語を話されるが、こちらは不得手、では中国語でと思うがやはり難しい。あげくのはてには高原通訳に来ていただいてやっと話が通じるなど、日ごろの勉強不足が骨身にしみました。しかし、和やかな雰囲気の中かでレセプションを終えることができ、友好を深めることができたと思います。

そのあとうれしい話がひとつ。日本からメールして訪問団への参加を知らせていたのですが、時間がなかったので多分お会いできないであろう思っていた友人に会うことができました。その方は、済南市在住で山東大学の先生をしているシン先生とその家族、ご主人の馬さんと長男の龍くんです。ホテルに電話があり訪ねてきていただきました。短時間でしたが山口での思い出話や近況を話し合い、とても楽しい時間をすごすことができました。また、長男の龍くんが小学校2年生でクラスでも大きいほうだと言っていました。背が高くなっているのにビックリもしました。またの再会を約して別れました。

14日は空路大連へとび、旧大和ホテル、旧満州鉄道本社建物などを観光しました。



15日は旅順へバスで向かいました。旅順は、天然の良港で軍港としてロシア、日本が押さえたところでもあり、中国となったあとも第一級の軍港で数年前までは観光できなかったと聞いていますが、現在では開放され多くの中国人が訪れていました。旅順博物館の見学では中国の歴史を物語る展示品が陳列されており楽しませてもらった。しかし、同等の商品だからと研究員自らが売り込み





をするのには驚かされた。

また水師營ではその維持に協力するために満州国時代の日本人がおいて行ったものを販売できるようになった。との説明は理解の苦しむところだった。

「坂の上の雲」の人気にあやかっていろいろ整備されているようで商魂たくましい現代中国の勢いを感じさせるところであった。

しかし、家主（中国）の家の中で他人（ロシアと日本）が喧嘩をしたあげく、家主を追い出して満州国を作るなど、過去の植民地政策とそれによる大きな被害を受けた、中国の人、日本から開拓団として乗り込みすべての財産、さらに命まで失った日本人を考えると、観光とはいえ苦い思いが残ったのも否めない。（歴史的な必然と試してみても）

15日の夕方、空路上海へ飛び、浦東空港からリニアモーターカーに乗り8分で上海市内へ到着した。バスでホテルへ向かう高架道路、高層建築のライトアップはまるで幻想の世界にいるような感覚であった。前回、バスの中からあの辺が万博の会場になりますとの説明を受けた場所にはスラム街の取り壊し、造船所の撤去作業が進められていたが、今は近代的な博覧会の建物が林立しておりまったく違った上海を表していると思った。



16日は上海で市内観光コースで、現在、アジアで最も高層といわれる森ビルが建設した上海ヒルズの展望台（450メートル？）に登り恐る恐る床のガラスを覗き込んだことが記憶に鮮烈に残っている。

きわめて多忙なツアーであったなかで、中国では、前回来たときと同じレベルの建設ラッシュが続いており、雇用創出のための施設が多く作られている。

このことで経済発展をさらに続けさせていく政策が続けられていることを感じた。

青島から濟南への新幹線、上海浦東空港からのリニアモーターカー、近代的な高層ビルが林立する浦東地区、どれをとっても超一流の国家の社会インフラを備えてきた現代中国を強く感じるとともに、反面、社会基盤投資が、特別市、省都などに集中して投下されていることによる地方都市（今回は旅順）との格差が広がっていく様子が見て取れた。また、かつてのようなアパートだけでなく、マンション建築が盛んに行



ヒルトンホテルを見下ろし、上海テレビ塔をはるか下にみる風景。テレビ塔の川向こうは外灘（石造りの洋館群）

われているのと、その価格にはびっくりさせられた。とまれ、バブルといわれようと多くの市民が豊かになってきていることも実感させられた。

以上、文書にすると前回と違って、どうも年のせいか、斜に構えた見方になったようでおゆるし願いたい。しかし、気持ちとしては一衣帯水の中国の健全なる発展を祈ってやまない。

最後に、同行された渡辺市長、野村議長ほか公式訪問団の皆様ご苦労様でした。そしてお世話いただいた山口市国際交流室の原田さん、JTB搭乗員の小山さん、また私どものバスの搭乗をしていただいたJTB兼行さん大変お世話になりました。有り難うございました。また大隈団長、ご馳走様でした。

『山口園』が出来るまで



山口市造園協会 会長
多々良 健 司

2008年小雪の候、市の国際交流室の前で「中国濟南市で第7回中国国際園林花卉博覧会が開催される。もしかしたら、友好都市として庭園の出展をすることになるかもしれない。その時は山口市造園協会に協力し

てもらえるだろうか。」という趣旨の立ち話をした。年の瀬が迫って、いよいよ出展を検討しようということになる。先方は春先までに計画案を決定し、夏までに工事を完成させえろという意向だ。着手が遅すぎる。

協会に持ち帰り検討。計画は会長であるわたしが担当。その後数人で現場指導に行く計画を立てる。大急ぎでプランニング。案の定プランの変更が続く。時代基本設計図が出来るところ、現地の造成が出来たという写真が届く。現代は現場の状況が瞬時に確認できて便利だ。しかし、日本の風情を演出するためには、樹木や石材の調達が肝心。国際協力庭園は、建設当事国が必要な資源を提供する。すぐに市の方々と現地入り。主要資材や現場確認をする。材料はありそう。工事現場はごった返していた。本当に間に合うのだろうかど不安になる。

着工。滝流れの岩組指導に行くはずが、現地入りすると施工は終わっている。意図が通じない。いろいろ思うことがあるが時間がない。多少の手直しをして、2009年9月の開園までの仕上げの指示をして別れた。暑い夏だった。開園に招待される。なんと間に合っている。現地施工体制を指揮した園林局の指導力に感謝。

山口園は、中世室町時代、我が国の国造りの見本は中国にあった。明に学びに雪舟が海を渡り、その後山口で活躍をする。その作品のひとつ、常栄寺の庭園は雪舟作としては随一のもものと聞く。嘗て先人が学んだ知識を空間にあらわしたその庭園をモチーフに、いま日本の山口の歴史文化を融合させた庭園空間に中国の方々に触れてもらうのを意図して設えてもらった。そして、2010年7月、友好交流訪問団にて市長や市民団と再度現地入り。園の銘盤を寄贈。そのまえでの日本舞踊の宴舞に今までの苦労を忘れる。やっぱり造ってよかった。小さな国際協力だったかもしれないが、両市の友好が確固なものとなり、ますます友好の輪が広がっていくことを祈念する。

山口市・済南市友好交流訪問団に参加して



徳久悦夫

今回済南市への友好交流訪問団へ参加させて頂き有難うございました。

山口市より海外の友好都市へ訪問団があるのは、市の広報で知って居りましたが、なかなか参加する機会がありませんでした、今回初めて参加する機会に恵ま

れ、また、すてきなパートナーにも恵まれて楽しい旅をすることが出来ましたことを、大変感謝しております。

その昔、中国は「眠れる獅子」とも呼ばれていましたが、今や世界的な経済大国となり、日本が一番経済的脅威を感じていると思われます。この、「世界の工場」の国を一目見たさで一杯でした。

青島から乗った中国の新幹線、上海で乗ったりニアモーターカーなど等、中国の技術の高さが伺えました。実際に新幹線では、日本の新幹線技術を取り入れた中国に、国際入札で負けることもあり、技術大国を自負していた日本が、ますます苦境に立つのは目に見えております。今後日本は、若く、柔らかい頭脳を持った人々にますます頑張って貰いたいものです。

私が感じたことですが、青島へ飛ぶ飛行機で見ました、青島へ近づくにしながらって、海の輝きが失われてきました、これは、海洋が汚染されているのでは無いかと心配になりました、また、訪問する都市ごとに、霧が掛かっておりましたが、この霧が気象上の原因で有れば良いのですが、もし、大気汚染で発生するスモッグであ

ったなら、偏西風に乗って日本の上空へやって来る、酸性雨や我国の大気汚染の原因になるような心配があります。これからは、日本の世界的評価の高い公害防止技術をビジネスチャンスとして、あの広大な中国大陆に売込めば、我国がまだまだ伸びてゆく余地が十分に有るような気がします。

でも、済南市の歓迎記念行事、レセプション、何れも感激いたしました、また、各都市の立派な大きな空港、広い道路、そして駅、さすがに大陸ですね、日本のように、ちまちましてないですね。

帰国後の17日に、県庁バイパス（9号線）を自分で運転して走りました、道路は狭いですが、ピカピカの車が整然と走ることと、中央分離帯の緑が目にしみました、また、後日、博多まで新幹線に乗る機会がありました、乗り心地の良さに、さすが、日本の技術、と感激いたしました。

もし、次回済南市友好交流訪問が実施されれば、もう一度、済南市および中国の変貌ぶりを見たく、胸を膨らませて、楽しみにしております。

ご心配頂いた皆様有難うございました。

以上。

山口市・済南市友好交流訪問団に参加して



戸崎 みゆき

私は、このたびの中国訪問団に参加して、本当に充実した5日間を過ごすことができました。子どもたちの世話と家事を全て引き受けてくれた夫と、元気に行ってこいと背中を押してくれた職場のみんなに、感謝、感謝です。

私が、この訪問団に参加したいと思ったきっかけは、訪問団が大連に行く、ということを知ってからです。大連には、父親ほどの年齢の友人とその家族がおり、5年前に会ったきりになっていました。20年近く前、知り合った当初はかなりの筆まめだった友人も、年齢とともに、また、奥さんの介護も加わり、あまり手紙を書けなくなったのでしょうか。

いつか会いに行きたい、会いに行かなくては、と思っていたところ、ちょうど市民訪問団のことを知り、これはぜひ！と思ったのです。また、友好都市である済南市はどんなところなのか、25周年を迎えた市民交流はどんなものか、見てみたい気

持ちもあり、勇気を振り絞って申し込んだわけです。

その結果、大連では、個人行動をさせていただき、友人とその家族と涙、涙の感動の再会を果たすことができました。いろんな話もできました。友人の娘さんに手を引いてもらって、車がびゅんびゅん通る三車線道路を横断する、恐怖の体験もできました。

また、旅行中は毎晩五つ星の高級ホテルに泊まり、室内の探検ができたほか、毎日食べきれないほどの中華料理を堪能し、とくに上海では、美味しい小籠包をお腹いっぱいいただきました。

それから、メインイベントの済南市園林博会場山口園前での交流式典で、炎天下にも負けず披露された日本の民踊は、とても素晴らしいものでした。海外で日本の伝統芸能を見て、改めてその素晴らしさを深く感じました。また、流れる汗をぬぐいながら民踊に見入っていた済南市民の皆さんからは、大きな拍手が送られ、両市の友好の絆を感じることができました。

今回の旅行は、スケジュール的に忙しかったのと暑かったのとで、とてもハードでしたが、自分の念願を果たすことができ、また、たくさんの方とお知り合いになれて、いろいろ助けていただいたり、教えていただいたり、私にとって、大きな実りのある旅となりました。

お世話になった皆さん、本当にありがとうございました！！

友好交流団に参加して



花田 忠義
千代子

今回は、前回に続いての参加となり、大変楽しみにして当日を迎えたのだが、爾来の雨で、国道262号が通行止めとなり下松からは、大回りとなる仁保経由で集合場所の山口駅に到着したのである。

中国は、青島市から鉄路新幹線で済南市への訪問ということで車窓の風景とか大変期待していたのですが、夜行列車になり風景が全然観えず、一寸残念に思った。

列車に乗る際セキュリティチェックがあり、我々からすれば少しビックリしたところである。済南駅へ到着したときは、夜遅くても、市の方の熱い歓迎があったのには、感激したところである。

済南市では、園林博跡地の山口園にて公式訪問団との記念式典に出席させてもらい、もろもろの式典が次第に従って粛々と進行されたが暑さで大変だった。

また、街の発展は、前回よりも道路整備や建物、街の美化には、目を見張るものがあり素晴らしく思えた。

夜は、当市主催の歓迎レセプションが開催され、美味しい料理と酒、済南市の人達との交流を大いに堪能させてもらったのである。

次の日は、空路大連である。大連は、気候もよくやや涼しく感じられた、大連は、日本の統治時代の建物、街並みが随所にあるとガイドから説明を受けた。

また、旧満鉄本社前では、ガイドの説明にいろんなことを感じたのであるが、義父が、満鉄に勤務していたこともあり感慨無量であった。

このたびは、体調も優れず観光もままならない状態であり残念な気持ちであった。

御縁あって

深 野 宗 泉

参加申し込みの締め切りは、とっくに過ぎていたのですが、知人から是非にとお声掛けいただき、今回の訪問団に参加させていただきました。

とはいえ、香山公園の隣の寺院へは、5年前に京都からやって来たばかりということもあり、恥ずかしながら山口と済南が友好都市であるということは、旅行前まで全く知らず。

俄に近くの図書館へ急ぎ、済南市や山東省についての地理や歴史についての書物を探しました。

旅の道中、それぞれに済南と深く関わって来られた方々のお話を伺い、また済南市側の落ち着いた歓迎ぶりに、この四半世紀に於ける交流の成熟度が伺えます。

たまたま私の生まれ故郷である和歌山市とも、友好都市であるという偶然。

レセプションでは、4年間和歌山大学に留学していたという方が同席し、遠慮無く盃を交わすこと数度。

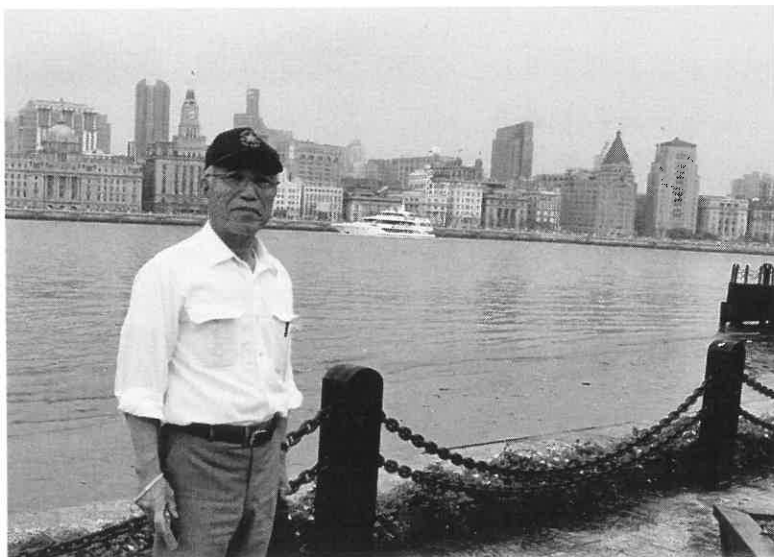
おかげさまで、私にとっても済南が、随分と身近になりました。

交流の後、この百年の歴史が色濃く残り、参加者それぞれが思いを寄せる大連、旅順へ。

東鶏冠山、203高地など、日露戦跡の凄まじく、おびただしい数の弾痕に触れる中で、弊寺境内に隣接する山口育児院は、日露戦争の孤児を寺で引き取り育てたことが始まりであり、その発端となった最前線の地に立った感慨に思わず身震い。

そっと手を合わさせていただくと共に、「今」に至る歴史とも、自分の足元がピッタリと重なったように思いました。

山口市・済南市友好交流訪問団に参加して



藤井 恵一

初めての大陸である中国観光で、緊張の連続かと心配していましたが、皆様の和やかな雰囲気を感じ、とても楽しい旅を経験しました。見えてきた空からの大陸・山肌の違いに感嘆し、これこそが発展している中国だと驚く、着陸態勢に入

ったら物凄くでかい建物に眼を見張った。

天候も気にすることなく、順調に各地を観光できた。(最後の上海は傘を使ったが、これも旅のよい思い出)

中でも旅順での見学は、露西亜との戦闘に費やした労を目の当たりにし、牢獄に二千人を収容しての絞首刑場には残酷さを感じずにはおれなかった。

一方、済南市における「水」の大切さを「泉は命」とし、ここまで発展した中国であることを思い知った。

李白や杜甫が詩を詠んだ大明湖内を散策し、悠久の感も十分味わった(乾隆皇帝のお墨付きの水)。

幸いにも現地の方二人と、初日の夜をドライブし、夜景の素晴らしさに眼を見張った、高速が天空に向かって光が繋がる壮大なスケールの夜景、広大な土地に体育施設が、種目ごとに専用で造られているなど思いもしない急速発展した豪勢さを知った。また、大学が一箇所に設置され、日本では考えていない多くのメリットを重視していた。

「山口市民館の緞帳」や維新公園の建物の原型となっている「障形法」と知りませんでした。

中国の方は勤勉なのだ、日本語の勉強を日ごろから心得ていると思う、店員さんが、手の平に「白」を書いて、そして「水」を下に書き「泉」=「いずみ」で、正しいかと尋ね、濁点では、「す」か「ず」についても教えて欲しいという熱心さに出会った。

この25周年が次の30周年に繋がり、両国が発展することを期待します。なお、この友好交流訪問団のために諸準備をされた、国際交流室の方と添乗された関係者各位に心から厚くお礼を申し上げます。

追記

※式典 「渡辺市長よりお祝い」のあいさつ。「謝々」の声に拍手が響く。

※日本の「花笠踊り」に拍手喝采。園林跡地世界花卉博覧会場をバッテリー自動車にて巡回し気分爽快。

※バスで移動するのだが、せっかく迎えに来たバスがエンジントラブルで、代替のバスが来るという有様で、昼食の時（ご迷惑をかけたとしてビールを無償でとのこと）＝（拍手）

※「済南料理とジナン酒で中国流のおもてなし」＝于魯閩 Yu Lumin（済南市人民対外友好協会 秘書長）

どうぞ、ワインでも・ジナンでも、お口に合うかどうか、日本酒とは違うかも？食べてみて、ちょっと熱い？「おかし」みたい？＜アルコール度数は34度位というが、日本のビールと同じくらい＞。（笑い）嘘？バイオで乾杯！普通は45度くらいかな。ジナンいらっしゃって、乾杯！大将乾杯しましょうよ、それじゃ、乾杯！大丈夫です、乾杯！この酒は頭にこない！乾杯！日本酒は足までくるけど、牛肉大丈夫でしょ。和歌山に4年いたくで、乾杯！飲まないと弱いから・・・？＜何とかいって？「乾杯！」の繰り返し＞。ベッピンさんたち、乾杯！（笑い）先生も応援してください。乾杯！みんな始めて、乾杯！食べて、食べて！＜「北京ダク」の食べ方の手本を・・・教わって・・・＞乾杯！健康のために 乾杯！（言うだけでは駄目、全部空ける）今、55歳あと5年に、乾杯しよう！乾杯！（このときは退職する年じゃ）「乾杯！」30周年のとき一緒にしましょう。今飲んだら酔わない、中国式ラーメンどうぞ。乾杯！これからスケジュールがよいように乾杯！＜不要＝プーヨを繰り返すが、また飲まされた。山口ではこのように接待で飲みましたか？＞。沢山いただきました。本当・・・。

テーブルに渡辺市長が見え、今度は山口へ是非、連れて来ましょうね。皆から来るようにいって・・・と、

「皆さんは市長を知ってますか」と、通訳の方が言われると、市長から「私がみんなのファン」と・・・（笑い）。

上海のために乾杯！・・・どうしよう、と、言ったら乾杯！飲んだらもっと綺麗になるよ、乾杯！ベッピンさん応援して・・・乾杯しないと、飲めば飲むほど・・・チーズ！乾杯！カンペーイ！（笑い）

乾杯！私の顔覚えてください、30周年のとき。（Dテーブルでの談笑＝これが中国の接待方法だと気づく）

※ 中国は何が優先か、車優先でも歩行者優先でもなくて、心「勇気」が優先社会だと。（笑） 完

歴史の世界を実際に見た感動



松 永 任 央
協 子

旅行会社より訪問団旅行の案内を受け、前回（20周年友好訪問団参加）に引き続き参加することにしました。訪問先スケジュールの中に、「旅順」「大連」「上海」の訪問地名が記されていたことが、大きく影響したと

思います。特に、歴史上の地、日露戦争時の旅順港を見下ろす「203高地」と、当時のロシア軍の要塞跡をこの目で見る事が出来ることでした。

又、乃木將軍とロシア帝国、ステッセル將軍の歴史的会見場「水師營」も訪問先として魅力の一つであり、歴史上の地を現実に訪問して実際に自分の目で見た時、日本史の世界が「ゾクゾク」と伝わってくる思いでした。又、大連の満州時代の主な洋風建築物（旧大和ホテル、等）やロシア人街の建築物が、中国の歴史の変転の中で、それらを残している現地の人の思いの中に、時代に対応していく幅の広さと、世界に影響を与えていくであろうと思われる中国人の忍耐力の強さのようなものを感じざるを得ませんでした。

上海は、丁度「世界万博」の最中で、会場付近の「光」の装飾による美しさに素晴らしい感動を受け、上海という都市の美しさをクローズアップされる思いでありました。高層ビルが林立する中で、人の多さと、車の多さには本当にビックリ、しかも交通ルールが、有るのか、無いのか、わからない様な、我先に行こうとする走行マナーに運転者の怖さを感じました。又、登録ナンバーの無い車が多数走行している事も驚きでした。

今回の訪問を通して感じたことは、中国の発展への取り組みの凄さ、地方の発展は「まだまだ」と聞いていたが、早晚、日本を凌駕し、世界の主要国へと進んでいくであろう「凄さ」と「恐ろしさ」を感じざるを得ませんでした。

最後に、山口市長様をはじめ、山口市や関係者一同様の御配慮と、中国友好協会の大隈博志氏の御苦勞に深く感謝を申し上げます。

山口市・済南市友好交流訪問団に参加して



山口民踊友の会一同

此の度の済南市への、市民友好交流訪問団に、参加させて戴き、有難うございました。渡辺市長様をはじめ、お世話して下さいました方々に改めて厚くお礼申し上げます。私は山口民踊友の会の一員として、井上澄枝先生他四名の方々、計

6名で訪問団へ加えていただき7月12日、山口を出発し、福岡空港から空路、青島に旅立ちました。更に目的地済南市へ列車で移動し、夜10時頃の到着となりました。途中ホテル迄の夜景も大変美しく、赤い十字架が点々と目に写り、今も印象に残っております。ホテルは予想以上に大きく、設備も家具も落ち着きがあり、楽しい夜を過ごす事が出来ました。7月13日は済南市の方々に日本の民踊を見て戴く為に、メンバー一同和服を着用して、園林博記念公園を訪問し、中にある山口園にて中国の方々に、山口民踊を軸に「松風」「湯の町流し」「女影音頭」の三曲を披露させていただきました。熱い日差しの中、舞台の石畳の上で汗だくになりながら、友好交流の一助になればと皆、懸命に踊りました。民踊を見る機会の少ない中国の方々に、山口の文化を理解していただけたら幸いと存じます。その際、お手伝いして下さいました訪問団の方々にも、本当に感謝申し上げます。

次の訪問地大連では旧満鉄の本社や旧大和ホテルを見学し、その時代の繁栄振りを垣間見て、又、旅順においては、乃木将軍とロシアの会談場所を見たり、203高地での激戦のお話を聴き、心が沈む思いでした。日露監獄跡では、目を覆う様な光景が浮かびあがり帰国後何日も、私達を悩ませました。どちらにとっても戦争はむごいことです。日本と中国の間には、まだまだ色々な問題がありましようが、この訪問団や私達の踊りが、両国の心を解かすのに、少しでも役立てばと、願っております。上海では世紀大道に乱立する何十階立てのビルや世界最高高度474メートルまで揚った上海ヒルズなど、急速な近代化を目にし、皆びっくりしております。5日間中国を旅して、日本の文化の礎を感じましたので、更に機会があれば、西安等も行って奥深い歴史文化に接して見たいと考えた次第です。この旅行で数多くの方々の世話になりましたこと、心よりお礼申し上げます。

最後に山口市と済南市の友好親善が末永く続きます事を祈念致します。

山口市・濟南市友好交流訪問団に参加して



山下 千夜子

まず、旅行にあたり関係各位の方がサポートしてくださり、無事故で帰山できましたことを、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

濟南市は、中国五大竈(かまど)の一つにあげられるそうで、南京、四川、重慶、

それに武漢が入るそうですが、朝からモヤが立ち込めて、白い日の出、赤い夕日で、青空はほとんど見られませんでした。青島から濟南への快速特急では、指定席なのに先客あり。それも老人ではなく、ビジネスマン、若い人が堂々と座っている。昔はこんなことはなかったなー。ま、日本でも地下鉄でコンパクトを覗く若い女性がいるのだ。衣食足りて礼節を忘れる、はどの国にもあるんだと妙なところで感心をする。

一人部屋同士のTさんと親しくなり、彼女に何かとお世話になる。徳地から参加のお二人も親切に面倒を見てくださる。感謝あるのみ。

濟南市の公式プログラムでは、13日午前9時より、去年の園林博会場、山口園の前で、植樹セレモニーと民踊の披露があり、民踊は山口市長はじめ手拍子の参加で盛り上がりました。

山口園の参観では、造園関係の方が、石組みはじっくり組みたかったのに、しっくりこないんだが・・・と。

素人の私には、赤色に入った石組みの庭に滝の音が滔々と響くのも悪くないと思えた。年月がたてば風景にとけ込むのではないか。気の落ち着ける庭であった。

帰りに園内の障害者用トイレを使用した。施錠の仕方に問題あり。内からと外からで錠を一回クルクルまわしやっとな開いた。トイレは、公衆トイレも新しくパールブルーで、外側にゴミ等なく清潔に見えた。

◆夜のレセプション

「汗かいて文庫帯結う交流会」親しくなったTさんに文庫帯を結ぶ。リウマチの手指は思うように動かず冷や汗であった。朝の和服姿の民踊の方達や浴衣のtさんを眺めていると、ナショナルコスチュームを身につけたとき生まれる自信、きりりとした美しさが良く解る。次からは、夜のレセプションは浴衣がけで男性も女性も参加したらどうでしょうか？

◆交流したい人々

バスの窓から眺めた、子犬と散歩しているカップル。合歓の並木陰で「唐将棋さす老将や合歓の花」。子どもの手を引き夕暮れに帰宅を急ぐ若い父親。このような人々と交流できたらと思った。

◆大連にて

「アカシアの蒼き残花や日本街」「鳩笛とさくらんぼ売るロシア街」

◆旅順にて

日露戦の跡、203高地は、草木深く、道は整備されているのにおどろく。碑も建っている。これは整備されてないという人もあるが、30年前のインフラの不備を思うと、良くなっている。

「水師営」の草ブキ、土壁の家。百年前はお金持ちの家で、二度か三度建て直した、とガイド氏。屋根には雑草がそよいで壁は落片があったが、祖父はこの地に来たのかと、感無量であった。その近くに赤レンガの獄舎があった。広場の芝は日本芝で、日本から持ってきたのだろうと参加者の方に教わる。

たくさんの人の苦しみを後に平和な現在に生活できることを改めて考える場所である。

真夜中に山口へ帰り着くと、市長さんほか関係者の方々がバスを迎えてくださり、徳地へ帰られる方が、反対方向なのにわざわざ送って下さった。また、国際交流室の方が、豪雨の道路事情について丁寧に情報をくださり、最後までありがとうございました。

山口市・済南市友好交流訪問団に参加して

吉 岡 正



7月12日から16日までの五日間の予定で、山口市・済南市友好都市締結25周年を記念して友好交流訪問団への参加の募集に応募して、青島を皮切りに済南市、大連、旅順、上海と訪問致しました。

上海を除いては初めての訪問だったので、私にとっては大変有意義な旅となりました。中でも友好都市である済南市は、山東省の省都であり人口約600万人で、政治、経済、文化の中心地であります。また市内には百以上の泉があり、その中でも市内の泉から湧き出る水を湛えた大明湖は湧き水の湖としては世界一との事でした。また最大の名泉であるホウ突泉は毎秒1,600リットルの湧出量を誇り、時には水面が50センチも盛り上がるそうです。

済南市に着いた翌日は、平成21年に第17回中国（済南市）国際園林花卉博覧会に

出展された「山口市庭園」がこの度25周年を記念して「山口園」と命名され、その前で山口市済南市による記念式典並びに記念植樹が盛大に行われました。また夜には友好祝賀会が開催され、済南市の方々と友好を深め合いました。

第3日目は空路済南市から大連に飛び大連市内を見学しました。大連はロシア並びに日本統治時代の趣を数多く残しており、帝政ロシアがパリをモデルに建設した広場やロシア風建物が建ち並び、一方日本に関わりの深い建物である中国銀行（旧横浜正金銀行）や大連賓館（旧大和ホテル）などがシンボリック的存在として現存しております。

第4日目は「坂の上の雲」の舞台でもある旅順の日露戦争めぐりでした。東鶏冠山、203高地の激戦地跡、終戦の舞台となった水師營の会見室、それに旅順駅、旅順博物館、日露監獄跡等を訪問しました。

私が今回一番行きたかった203高地に登り、弾丸の形をした爾（に）霊山（れいざん）と書かれた記念塔を仰ぎ見た時、私の体の中にえも言われぬ大きな感慨が沸き起こりました。この爾霊山は単に203高地に対する語呂合わせではなく、乃木将軍がこの山で死んだ無数の霊（乃木将軍の次男保典もここで戦死）に鎮魂の想いをこめて「爾(なんじ)の霊の山」と銘銘された謂れがあるからであります。

第5日目はまた空路上海まで飛び、現在開催中の上海万博の見学となりましたが、当日に限って大雨となり日本館と未来館の二ヶ所だけの見学に終わりました。総じて少しハードではありましたが、私にとって記念すべき旅となったことに感謝する次第であります。

山口市・済南市友好交流訪問団に参加して



野村 幹 男

この度、済南市との友好都市締結25周年を記念しての中国訪問で大変貴重な体験の機会を得ることができました。

訪問するまでの私の持っていた中国という国のイメージとはずいぶんとかげ離れた印象でした。最初の到着地である青島空港上空からの眺めは都会そのものでした、スクラップアンドビルドという言葉のようにながれきの山と新しい高層ビルの混在している様子に経済大国となった中国を目のあたりにし、この思いは済南市と鄒平県訪問の五日間ずっと続

この思いは済南市と鄒平県訪問の五日間ずっと続

きました。

広大な国土であり地域差はあるようですが、日本の昭和30年代と現在が混住しているという印象でした。日本の経験した高度経済成長のようにこのまま発展が続くということを見ると人口の多さと国土の広大さを含め、まさに脅威だなと感じたところでした。

「熱烈歓迎」という中国のイメージは各地での歓迎行事などで想像以上の統一感と熱心な歓迎を受けました。また、前済南市長主催の食事会ではこれまでの交流事業の思い出話も聞かせていただきました。

今回の訪問では私にとってもうひとつの期待がありました。

10年前の友好都市締結15周年少年少女友好交流事業で我が家に2日間という短いホームステイではありましたが当時中学生の子ども達と交流した呂君に会えるという期待です。

済南市の職員の方に呂君を探していただき、現在は山東省のスポーツ関連の外郭団体で今年から働いているということで、訪問2日目にご両親と一緒に宿舎に会いに来てくれました。当時の写真や記念品も双方が持ち寄り通訳の方にもお世話になり中国での結婚適齢期の親子関係などいろいろな話もでき大変有意義な再会となりました。

今回は、済南市、鄒平県、山口市それぞれの都市の観光PR交流もされました。民間交流や観光訪問、子ども達の交流など、今後の更なる親密な意義ある交流事業を通じ良好な両国関係が構築、継続の期待できる訪問となりました。

今回お世話いただきました関係の皆さまには心よりお礼申し上げます。

チャイナ ハオジュウ メイチェン
「中国 好久 没見」・・・中国お久し振り



岩 城 精 二

8年ぶり二度目の訪中が叶いました。山東省の済南市も鄒平県も経済発展は目覚しく、車の多さと道路網の整備に比例するように、企業活動が活発で中国の高度経済成長を裏付けるものでした。ただし、経済成長とともに青く澄み切った空

を見ることができなかつたのは、ちょっと心配です。

しかし、国の将来を担う子どもの教育への投資は、すばらしくて、日本の見習う

べきところと強く感じました。済南市の外国語学校を訪問した時、子ども達が、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語など沢山の外国語を勉強したり、ミュージカルを披露してくれるなど、国際人を育てる教育には驚かされました。また、鄒平県の実験小学校では、多くの児童が熱烈歓迎をしてくれ感動的でしたし、新築された各教室の黒板の裏に電子黒板が埋め込まれているのには、うらやましくも思いました。10年ひと昔と言いますが、8年でこれまで変わるとは、正直想像できませんでした。

今回は、二度目の訪中なので、一つだけ挑戦してみようと思ったことがありました。それは、通訳なしで中国語での自己紹介を実践しました。「你好 我是 山口市教育長 岩城精二 請多关照」・・・「こんにちは 私は、山口市教育長の岩城精二です よろしくお願ひします。」外国語学校の先生方から拍手をいただきましたので、十分通じたものと自信を持ちました。

帰国前に上海万博を少し見学しましたが、地元のガイドさんの説明では、中国人曰く、上海万博・・・行かなければ後悔する・・・行けばもっと後悔する・・・各国の展示館4、5時間待ちが普通のようなようです。とても疲れる見学となりましたが、「百聞は一見にしかず」と言いますが、今回もよき体験となりました。

またの機会を楽しみにしています。 謝謝

山口市・済南市友好交流訪問団に参加して



上野省一

友好交流訪問団の一員として、25周年にあたる済南市と15周年の鄒平県に行って参りました。

初日の7月12日に青島へ着きました。ここから海岸沿いに南へ下れば諸葛亮孔明の故郷の「琅椰」に行けますが、旅程は高速鉄道で

新幹線とそっくりな車両に乗り込み済南へ向かいました。

13日は青島日本国総領事の斉藤さんも駆けつけて頂き、済南市の舜耕山庄貴賓間において張建国市長との会見に臨み、続いて市民訪問団も加わって慶祝宴会へと大勢で友好を深めて参りました。

翌日は、車で済青高速公路を東へ2時間ほど戻り、鄒平県へ入りました。街並みがそっくり造りなおされている最中で、中でも滑走路級の道路に圧倒されました。

ところで、高速公路の先には、古都「臨淄（管丘）」があります。太公望呂尚が「人々が斉（ひと）しく生きる」ことを願った邦、「斉」の始まりの地です。後に中原の覇者、斉王桓公とその宰相管仲が又、鮑叔が交わったところです。気が高揚してくる中で、どうして「魯」の付いた車ナンバーが多いのでしょうかの問いに、即座に「孔子」と答えると笑顔で頷いてくれました。思いが通じた交流の一瞬でした。

訪問、視察先での熱烈歓迎とあわせ経済力も思想も大きな中国が蘇りつつあることを目のあたりにした5日間でした。ありがとうございました。

友好交流訪問団に参加して



安光賢治

この度、表記訪問団として済南市、鄒平県の2都市を訪問することとなり、初めて中国大陸に渡りました。

私の見た中国は急速な経済成長により近代的なビル建設が相継ぎ、街並も環境に配慮した公園の設置や沿線への緑化に積極的に取り組

組まれていました。さらに都市へ延びる道路や鉄道などの高速交通網の整備が着々と進められるなど、正に日本に追いつき、追い越そうという状況を目の当たりにし、今日の中国の経済力に改めて驚かされたところです。

公式訪問では済南市国際園林花卉博覧会記念公園（造園緑化技術の向上のために開催された博覧会会場）の山口庭園にて、友好交流を記念する銘版「山口園」の除幕式や植樹を市民訪問団立ち会いの下で行なうことができました。会場では、市民訪問団の方々が民謡や舞踊の披露をされ友好交流に一役買われるなど、参加者にとっても記憶に残る旅のひとつになったと思います。また、本市と済南市、鄒平県の観光をテーマにした情報交換会では、活発な意見が交わされたところですが、今後、観光をキーとした市民交流に広がっていくことに期待したいと思います。

両都市における歓迎レセプションでは最高のおもてなしをいただき、視察先である済南外国語学校や鄒平県の実験小学校では子ども達の熱烈歓迎を受けるなど、心温まるひと時を過ごすことができ心に残る思い出となりました。

この度の訪問は非常にハードな日程ではありましたが、初めての中国大陸での交流訪問、私にとって充実した5日間でした。

中国姉妹友好都市を訪問して



鯨田 慎 治

私は、7月12日からの5日間、公式訪問団の一員として、済南市、鄒平県、上海市を訪問させていただきました。

今回、市長随行として参加させていただきましたが、滞在中は、公式訪問団で一緒にさせていただいた皆様

をはじめ、市民訪問団の方々には大変お世話になり、短い期間ではありましたが、とても有意義な友好交流ができたと感じております。皆様方に心よりお礼を申し上げます。

私は、中国を訪れるのは今回が初めてでしたが、訪問させていただいた済南市、鄒平県の関係者の皆様に大変温かい歓迎を受け、言葉の壁を越えて、その人柄に接することができ、心温まる時間を過ごさせていただいたことが大変印象に残っております。

また、済南市、鄒平県、そして上海市における著しい経済発展の様子、そして済南市、鄒平県の各学校を訪問させていただいた際には、次代を担う子ども達の教育に大変な力を注いでいる状況が肌で感じられ、これからの山口市が持続的な発展を可能としていくために何が必要かということを考える上で、大いに参考となった気がいたします。

さらに今回は、中国における個人観光ビザが大幅な緩和をされたということもあり、観光面での交流・連携にも重点をおき、中国から山口への旅行客増加を促進するための観光PRも実施するなど、中国に近い山口市にとって、今後の地域経済の成長を促す大きなきっかけをつくる交流が行えたように感じました。

私は、この度の訪問を通じて、中国の都市が著しい発展を続けている様子を実際に見ることができたと同時に、都市と都市、人と人とが交流することで広がる大きな可能性というものを強く感じたところであり、グローバルな視点から本市の今後の発展を考えることのできる貴重な経験をさせていただいたと思っております。

山口市・濟南市友好交流訪問団に参加して



竹 内 僚

この度の山口市と濟南市の友好都市締結25周年を記念した友好交流訪問において、公式訪問団の新たな取り組みとして観光交流プレゼンテーションを行うこととなり、そのプレゼンターの1人として訪中機会を得たことは、私にとって大

変貴重な体験となりました。

観光交流プレゼンテーションは、濟南市と鄒平県の両都市において観光部局と旅行エージェントの方々に対して実施したのですが、発表時には、通訳の方と一緒に、本市の多様な観光資源や交通アクセス、観光ルート等を紹介することができ、有意義な時間を持つことができました。

また、濟南市からのプレゼンテーションにおいて本市に対して、9月初旬に濟南市で行われる国際観光祭への参加要請をいただいたこともあり、将来に向けて、互いの観光交流を持続的に発展させていくための足がかりができたのではないかと思います。

発表での細かな部分については、個人的に猛省しなければならないことも多々ありましたが、今回の経験を糧とし、プレゼンテーションをより内容の濃いものに、そして、見ていただく海外の方々に、“日本の「山口市」に行ってみたい！”と、より一層感じていただける説得力のあるものにしていきたいと考えています。

最後に、友好都市である両都市との交流が、今後、より一層発展することを願って、また大変お世話になった訪問団のみなさまに感謝し、私の訪問記とさせていただきます。本当にありがとうございました。

友好交流訪問団と共に



高原 尚子

今回、わずか4年の歳月が、今の中国ではまるで浦島太郎にでもなったかのような気分を味わうのには、十分な時間の流れであることを改めて痛感させられました。実は濟南市は4年前の初公式訪問以来、幾度か訪問の機会を頂戴しており、街の驚

異的な発展ぶりも段階的に目にしてきましたが、一方、雛平県訪問は4年ぶり。4年前、延々と続くとうもろこし畑の中、車が土ぼこりを上げながら進んだ、丘の上にはぽつんと建つリゾートホテルへと続く道は、今や片側3車線のアスファルトの道に整備され、沿道には新しいマンション、学校、県の施設などのビルが次々と建設され、近々巨大商業施設もオープン予定とのことでした。けれども、急速に変わりゆくこのような風景も、現在の中国においては、きっと驚くに値しない日常的な風景なのでしょう。戦後、急速に復興を果たした日本の勢いも、かつてはこのように感じだったのかと現在の日本の様々な姿を思い起こしながら、少し複雑な思いがしました。

しかし、今回の目的、友好交流における基はやはり「人」対「人」。中国の大地には、以前と変わらぬ「熱烈歓迎」の熱い心が溢れていました。特に学校訪問では、夏休みにも関わらず、私たちを迎えるために、猛暑の中素晴らしい舞台まで披露してくれた生徒の皆さんや先生方のたくさんの笑顔に出会え、また、訪問が順調に進むよう陰で支えてくれた現地の担当者や関係者の方々等、大勢の「朋友」たちが、私たちのために流してくれたたくさんの汗も訪問の随所で感じ、本当に温かい気持ちになりました。

私自身、中国の方々とのお付き合いも既に20年あまり。その間に中国は大きく変わり、日本との関係も変わってきました。そしてこのような目を見張るばかりの変化する環境の中、中国の人々の意識や価値観もやはり変わってきているようです。しかし、これまでの長い時間をかけ、一步一步培ってきた市民レベル、民間レベルでの人と人の交流の歴史は、やがて万里の長城のように確かなものとしてその形を後世に残すことでしょう。また、どんなに時代が変わっても、彼らの「懐の深さ」と「熱い思い」だけは中国の広大な大地にしっかりと生き続けることだろうと確信できた、今回の訪問でした。

最後に、さまざまな場面においての自らの至らなさをお詫び申し上げるとともに、5日間皆様とご一緒できましたこと、心より感謝申し上げます。

非常感謝！！

友好都市済南市と鄒平県を訪問して



原 田 憲 明

この度の済南市・鄒平県の訪問にかかる仕事に携わり、山口市のみならず済南市や鄒平県の多くの皆様にお目にかかれ、大変心に残る仕事となりました。

実行委員会の皆様からは、これまでの経験を基にした積極的な御意見をいただき、

様々な事案をスムーズに解決することができました。また、山口民踊友の会の皆様には、暑い中での屋外の披露となりましたが、3つの踊りを舞っていただき、素晴らしい記念事業を繰り広げることができました。

済南市の皆様には、早朝から深夜まで、市民・公式訪問団に付き添っていただき、温かい心のこもったおもてなしをいただきました。参加された市民の皆様は、張建国済南市長の歓迎レセプションに出席するなど、きっと記憶に残る訪問になったことと思います。

公式訪問団は、済南市から鄒平県へと行程を進めましたが、鄒平県の皆様の県を挙げてのおもてなしには、今思い返しても感動と感激に耐えないものでした。

最後の宿泊地となりました上海市での市内や万博の視察などを通し、4泊5日の全行程で伸び行く中国の姿を存分に拝見することができた訪問となりました。今回の訪問を無事行なうことができたのは、関係していただいた皆様の御協力とご指導の賜物と思っております。

山口市と済南市、鄒平県の友好関係が末永く続くことを願い、これからも微力ながら尽力してまいりたいと考えております。今回、参加された市民の皆様のお健康と御発展を祈り、今回の訪問の感想とさせていただきます。ありがとうございました。



徐华东会见日本客人

本报7月13日讯(记者 季耀昆)今天中午,市人大常委会主任徐华东在山东大厦会见了以日本山口市市长渡边纯忠为团长、市议会议长野村干男为副团长的山口市友好城市25周年访问团一行。

徐华东对访问团一行的到来表示欢迎。他说,两市自1985年缔结友好城市以来,在青少年、教育、文化、经贸以及社会事业等领域开展了广泛交流,取得了丰硕成果。2009年,山口市积极参展我市承办的第七届中国国际园林花卉博览会,设计建造了独具特色的日本园林——山口园,受到了广大游客的一致好评,获得了大会颁发的荣誉奖。近年来,济南市不断加快改革开放的步伐,在经济社会领域取得了一系列新的进步。特别是去年,我市成功举办了第十一届全运会和第七届园博会,城市面貌发生了很大变化,希望访问团一行在济南多走走,多看看,对济南市的建设和发展多提宝贵意见。希望两市以结好25周年为契机,进一步推动务实合作,加快共同发展,使两市友好关系跃上新台阶。

今天上午,两市结好25周年友好植树仪式在园博园山口园举行,市人大常委会副主任段青英参加仪式。

市人大常委会秘书长朱新海参加活动。

济南日报本紙の7月13日 ニュース

(記者 季耀昆)

本日の正午、市の人民代表大会常務委員会の徐華東主任が山東ビルで会見しました。

渡辺純忠市長を団長、市議会 野村幹男議長を副団長とする日本山口市友好都市25周年訪問団の一行について報告しました。

徐華東主任は訪問団の一行の到来に歓迎の意を表わしました。

主任は、2市は1985年友好都市関係を結んでから、青少年、教育、文化、経済・貿易や社会事業などの領域で広範な交流を展開し、実り多い成果を得たと発表しました。

2009年、済南市が引き受けた第7回中国国際園林花卉博覧会に、山口市は積極的に参加し、独自の特色を持つ日本庭園を設計・造園しました——この山口園は、多くの観光客に好評を博し、園博協会から榮譽賞を受賞しました。

ここ数年来、済南市は絶えず改革開放の足並みを加速し、経済、社会の領域で一連して新しい進歩を得ています。

特に去年、済南市はみごとに第11回全国体育大会と第7回園博会を催し、都市としての顔に大きな変化を見せています。訪問団は済南市で多くの場所を訪ね視察を行ない、済南市の建設と発展に対して多くの貴重な意見を出しました。

25周年友好の締結を契機に、両市がいつそうの実現的な協力を推し進め、併せて共同発展を加速させることにより、両市の友好関係は新しい段階に飛翔するでしょう。

今日の午前、両市は友好25周年記念の植樹式を園博園の山口園で催し、市の人民代表大会常務委員会の段青英副主任と朱新海市人大常委会秘書が参加しました。

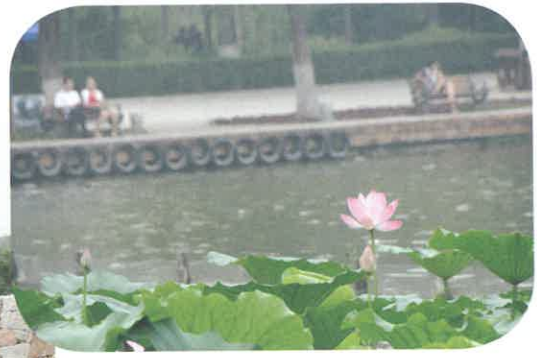
山口市・済南市友好交流訪問団訪問の様子

文化披露の様子





済南市の様子





鄒平県の様子





大連・上海の様子







